

畜産みやぎ

発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 木村春雄

印刷所
 (株)東北プリント



日本犬中型犬(有色紀州犬)「古狼号」(原産地 和歌山県)

もくじ

CONTENTS

<会長年頭挨拶>	2	酪農の省力化に向けて ～搾乳ユニット自動搬送装置(キャリアロボ) の導入～	8・9
<知事年頭挨拶> 元気で活力のある宮城を目指して	3	<衛生便り> 牛ヨーネ病について	9
イネWCS・飼料用トウモロコシ収穫調製作業 受託の取組み	4・5	NOSAI宮城 中央家畜診療センターの紹介	10
たい肥施用コーディネーター養成研修	6	実践大学校生の抱負	11
<畜試便り> 「しもふりレッド」完成豚を 利用した ^{ミヤギノポーク} 宮城野豚出荷・枝肉成績について	7	優秀農林水産業者の表彰について	11
		賀春	12

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール mygchiku@mwnet.or.jp



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、
 植物性大豆油インキを使用しています。

〈会長年頭挨拶〉

社団法人 宮城県畜産協会
会長 木村 春雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は本県農業の基幹作物である稲作の作況指数は、101となりましたが、価格は前年を下回り、農家経済は誠に厳しい状況となり社会面では尼崎の列車転覆事故を初めとし悲惨な事件、事故が多く発生した年でもありました。

一方畜産では、米国でのBSE発生以降輸入を禁止しておりました北米産牛肉が、昨年12月安全審査上の問題を抱える中で輸入解禁となり、また、鳥インフルエンザの感染が深刻な問題となり、2,000万羽以上が処分されるなど、鶏にとって受難な年でした。

農業を取り巻く情勢は、これまでのわが国農政のあり方を大転換する改革である経営所得安定対策等大綱の決定、WTO香港閣僚会議やタイなどアジア諸国との経済連携交渉等が行われ、わが国の食料・農業や農村等の将来に係わる極めて重要な交渉が行われた年でもありました。

特に「担い手」につきましても、地域の実態に即した基準で、生産者、関係機関、関係団体皆様方のご協力を頂き一体となって取り組んでいきたいと考えております。

また、重要な局面を迎えているWTO農業交渉では、著しく自給率が低いという食料輸入国の事情等を引き続き主張していくための足がかりを得ることが出来たのではないかと感じております。

今後の交渉は厳しくなっていくものと思われませんが、わが国を含め食料輸入国の農業にとって重大な危機が生じかねませんので、交渉結果が危惧されるところです。

さて、本県の畜産は、農業産出額の3割を占める

までに成長し畜産主産県としての位置を確保しておりますが、米政策の転換により畜産は重要な作目です。

畜産物の生産活動を通じ、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と環境保全も担いながら、重要な役割を果たしております。

しかしながら、牛海綿状脳症(BSE)の発生以降、度重なる食品の不正表示問題など、食品の安全や品質に対する信頼を根底から揺るがすような事態を招いたこともあります。さらには米国でのBSE発生による米国産牛肉の輸入禁止、国内での高病原性鳥インフルエンザの発生など、「食」に対する消費者の関心が一層高まる中で、県民に信頼される畜産物の生産体制を築くことが強く求められており、また、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤問題、低コスト化生産への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策等々の強化も緊急な課題と考えております。

このような現状を踏まえ、本会は主に宮城県が打ち出す農業・農村振興や食の安全、安心確保の実現に向けた畜産関連施策と連携を密にし一体的に事業を推進していかねばならないと考えております。

本県の畜産主産地として、より一層競争力を強化していくためには生産性の高い畜産経営体に対する支援指導、価格安定対策、家畜の改良等多岐にわたる事業に積極的に取り組み畜産経営の安定に資する所存ですので、関係機関、団体の皆様には今年も更なるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、畜産農家の皆様、関係者の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。



〈知事年頭挨拶〉

元気で活力のある
宮城を目指して

宮城県知事 村井嘉浩

明けましておめでとうございます。皆様には夢と希望に満ちた新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

新年を迎え、県民の皆様から寄せられた大きな期待と責任の重大さを改めて痛感し、まさに身の引き締まる思いです。県民の皆様のご信頼に応えるため、全力で県政の諸課題に取り組んでまいりますので、格別の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、国の構造改革や経済のグローバル化の進展など、社会情勢が大きく変化する中、県はこうした時代の変化を受け止め、常に変革し、宮城県の明日の飛躍・発展に向けて、政策の転換を図っていくことが求められております。こうした中、世界や経済の動向、社会情勢を広く見渡すと同時に、現地・現場を重視し、さらには時代の潮流を予測し、将来を見据え行動する姿勢を持ち、県民の衆知を集めて「民の力を最大限に活かす県政運営」を目指します。

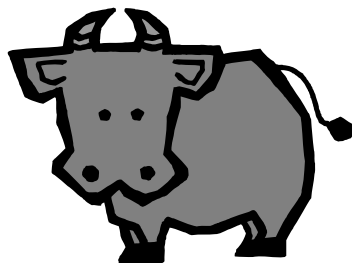
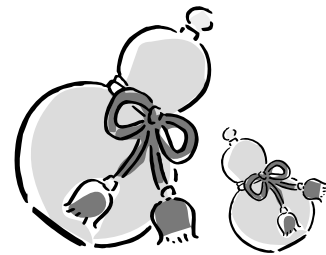
宮城県は今、東北楽園ゴールデンイーグルスの誕生や燕栗沼地域のラムサール条約登録などにより、全国から注目されております。こうした契機を最大限に活かし、観光政策や企業誘致、海外戦略による国際的な経済交流に積極的に取り組むなど、私自身が「宮城県のトップセールスマン」として、魅力あふれる宮城を全国、そして海外へと積極的にPRしてまいります。また、地域経済を再生し、自立自足の地域社会を実現するため、地域資源や民間の力を最大限に活用し、新産業の創出や地域産業の育成を図るなど、宮城県の産業経済の飛躍に向けた礎を築いてまいります。そして、こうした富と雇用を創生する政策により、地域経済の浮揚を図り、「元気で活力のある宮城県」を創り上げてまいりたいと考えております。

次に、危機的状況にある県財政を健全化するため、積極的な産業振興策により経済の活力を取り戻し、税収の増加を図る一方、徹底したコストの削減と組織のスリム化に取り組むなど、より生産性の高い県政運営を進めてまいります。そして、民間人の登用や、経営感覚に優れた民間企業、高度な専門知識・技術を有する大学との連携を図るほか、市町村との対話やパートナーシップ、さらには東北・北海道ブロックでの広域連携などにより、多くの知恵と力を結集し、県民が主役となる真の地方分権の実現を目指します。

さらに、県民が安全に、そして安心して生活できるよう、宮城県沖地震の再来に備えた震災対策の強化や治安の維持、医療・福祉の充実、食の安全の確保を図るなど、日本に誇る「安全・安心みやぎ」の実現のために全力を尽くしてまいります。また、少子高齢化に対応し、高齢者福祉の充実を図るとともに、子育てと仕事を両立できる就労環境を整備するほか、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

先の選挙では、多くの皆様から「宮城県を元気にしてほしい」、「活力を取り戻してほしい」といった声をいただきました。私は、こうした声を真摯に受け止め、宮城県のリーダーとして、県民一人ひとりが心から「生まれて良かった」、「育って良かった」、「住んで良かった」と思える宮城県を皆様とともに築いてまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



イネWCS・飼料用トウモロコシ収穫調製作業受託の取組み

社団法人宮城県農業公社

① 飼料イネ収穫調製作業について

稲発酵粗飼料のメリットは輸入粗飼料に頼らない良質・安全な粗飼料の確保、水田機能を維持しながらの粗飼料生産が可能であることから、近年、宮城県内でも取組みが増加しております。

農業公社では、国産粗飼料の増産と耕種・畜産農家のニーズに応えるため、平成13年度に専用機を導入、収穫調製作業受託を実施し、今年で5年目の取り組みとなっており、専用収穫機械については、収穫機4台、自走ラップマシン5台を保有しています。



【作業受託面積】

- ・平成13年度： 60.20ha（一迫町、金成、田尻町ほか4町）
- ・平成14年度： 64.10ha（金成、一迫町、河南町ほか8町）
- ・平成15年度： 109.55ha（金成、河南町、丸森町ほか11町）
- ・平成16年度： 99.57ha（金成、河南町、色麻町ほか11町）
- ・平成17年度： 88.46ha（栗原市金成、石巻市(旧河南町)、色麻町ほか9町）

【作業料金・作業内容】

- ・25,200円／10a（標準型）
- ・22,700円／10a（団地型）4ha程度
- ・15,700円／10a（ラッピング無し）

※作業内容は専用機による収穫・梱包、ラップマシンによるラッピング作業まで。

※トワイン・ラップフィルムの材料費、燃料費、労務費、機械輸送が含まれます。

機械のオペレーターは公社職員が行います。

希望によっては乳酸菌等の添加も行いますが、作業料金には含まないため別途料金が加算されます。

② 細断型ロールベアラによる飼料用トウモロコシ収穫調製作業について

近年、飼料用トウモロコシは栄養価も高く、給餌の中心となる粗飼料ですが、作付面積が年々減少傾向であります。要因としては収穫調製作業が大変で、高齢化や規模拡大による輸入粗飼料への依存傾向が高まってきたことなどが上げられます。

そこで、労働力の軽減が期待され、かつ、良質コーンサイレージ調製が可能な「細断型ロールベアラ」が開発されました。農業公社では平成16年度に専用機を導入し、これについても作業料金を設定し、ワンマンによる収穫調製作業受託を実施しています。



【作業受託面積】

- ・平成16年度： 2.20ha（米山町、豊里町、岩出山町）
- ・平成17年度： 1.25ha（亶理町、角田市、田尻町）

【作業料金・作業内容】

- ・ 22,000円／10 a (標準型)
- ・ 20,000円／10 a (団地型) 2 ha程度

※作業内容はハーvesterによる収穫・細断、細断型ロールベラによる梱包、ラップマシンによるラッピング作業まで。

※ネット・ラップフィルムの材料費、燃料費、労務費、機械輸送が含まれます。
機械のオペレーターは公社職員が行います。

③ 麦類収穫調製作業について (二毛作栽培)

麦類WCSは専用機の有効活用と単位圃場面積あたりの飼料増産を図ることを目的に実施しております。具体的には飼料イネ+大麦・ライ麦を使った二毛作の実証試験です。

2 ha規模での実証で、圃場は登米市南方にある「農地保有合理化事業」で取得した公社保有地です。

飼料増産はもちろん、給与についてもまったく問題ないことが実証されています。

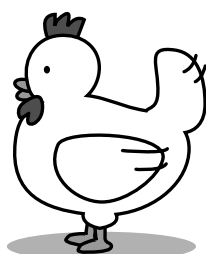
登米市南方の圃場では他にも飼料イネ専用品種を使った栽培実証を8.5ha規模で実施しており、県内での飼料イネ専用品種の普及・推進も行っています。

また、栗原市金成では平成16、17年度に圃場整備事業の事前転作としてライ麦を栽培、専用機による収穫調製作業を受託し実施しました。

**【作業受託面積】**

- ・平成16年度：2.17ha (二毛作：大麦、ライ麦)
22.05ha (金成町：ライ麦)
- ・平成17年度：2.17ha (二毛作：大麦、ライ麦)
3.66ha (栗原市金成：ライ麦)

(畜産振興班 佐藤 光美)



たい肥施用コーディネーター養成研修

宮城県産業経済部農業振興課

平成17年10月3日(月)～7日(金)に茨城県つくば市で開催された「たい肥施用コーディネーター養成研修(基礎研修)」に参加しましたので、その概要を紹介いたします。

<たい肥施用コーディネーター養成研修とは>

農業技術協会が主催し、平成13年度から開催されている研修で、「作物生産性の向上と持続的土づくりを推進するため、良質な家畜ふんたい肥の適正で積極的な利用を指導する意欲と知識・技術を有する人材育成」を目的としています。

<研修内容等>

研修参加者は、県・市町村・JA・たい肥センター運営組織・農業者・民間企業等いろいろな分野から、また、畜産サイド・耕種サイドの両方の関係者が集まり、幅広い内容で意見・情報交換が行われました。

研修内容は、①たい肥についての基礎的な知識 ②試験研究機関の最新の成果 ③現場で使えるたい肥の分析方法実習(写真) ④たい肥の優良活用事例等多岐にわたりました。



写真 たい肥分析診断方法の実習風景

以下に2つほど内容を紹介すると

- (1) 環境保全的たい肥の施用方法：圃場の土壌状態を把握する(土壌分析等)とともにたい肥中に含まれる肥料成分を考慮して、たい肥や化学肥料の施用を行うことで、農作物の適正な生育と環境負荷軽減を図る。
- (2) 現場でできるたい肥の品質評価法：コマツナ種子を利用し、①発芽状況による評価(新たに開発されたドット状粘着剤付発芽シートを用い、従来法より省力化された簡易検査法) ②根の伸長状況による評価(シートパック(種子成長袋)を用い、たい肥が根の伸長に及ぼす影響を明確に評価する方法)。

<耕畜連携による土づくりの推進に向けて>

たい肥施用コーディネーターの役割は、研修の目的にもあるように、「耕畜連携を促進しながら、良質たい肥の生産と適正利用の推進」を図ることにあります。

今回の研修の成果を活かしながら、家畜排せつ物の適正処理と環境にやさしいたい肥の施用技術の推進に努めていきたいと思っております。

<備考>

たい肥施用コーディネーター養成研修の詳しい内容の紹介や、これまでの研修参加者全員が作成したレポート(タイトル：地域における家畜排せつ物等のたい肥利用推進のための問題点とその解決方策)等は、(財)農業技術協会のホームページで公開されています(HPアドレス：<http://www.nou-gi.or.jp/>)。

(普及指導チーム 技術補佐(土壌・肥料指導担当) 小野寺 和英)

〈畜試便り〉

「しもふりレッド」完成豚を利用した

ミヤギノポーク

宮城野豚出荷・枝肉成績について

宮城県畜産試験場

宮城県では、平成2年3月に、ランドレース種系統豚ミヤギノを造成した。その雌に大ヨークシャー種ゼンノー01雄を交配して、雑種第一代ミヤギノクロス雌豚を作出し、これに農水省種畜牧場が造成したデュロック種系統豚サクラ201雄豚を交配し生産した肉豚がミヤギノポークである。

ミヤギノポークは平成5年に初出荷され、銘柄化されていないものも含め、約6万頭の肉豚生産となった。しかしながら、肉豚に占めるミヤギノの遺伝的割合はわずか25%であり、また、ゼンノー01とサクラ201は他県での銘柄豚でも利用されており、県産豚肉ミヤギノポークとしての特徴を出すには不十分であった。そこで、平成6年、肉豚に対する影響力の大きい止め雄品種であるデュロック種において、本県独自の系統豚を造成する事業に着手した。そして、7年の歳月を経て、平成14年3月、系統豚「しもふりレッド」が完成した。この豚は、発育性、産肉性及び肉質において優れた能力を有し、新しい県産豚肉ミヤギノポーク生産への有効活用を期待され、現在までに、県内生産農家へ広く配布されている。平成15年8月には、「しもふりレッド」完成豚を利用したミヤギノポークの初出荷がなされ、その後も、続々と出荷がされている。今回、その新ミヤギノポークの出荷・枝肉成績がまとまったので、ここに報告する。

〈方法〉

「しもふりレッド」完成豚を配布（一部精液配布も含む）した6農場を選定し、平成16年次の「しもふりレッド」完成豚を利用したミヤギノポークの出荷・枝肉成績を回収した。調査項目は、出荷日齢、出荷体重、一日平均増体量（出荷体重／出荷日齢）、枝肉重量、格付脂肪厚、格付等級及び格落要因である。

表1 性別の全体成績

	去勢	雌	合計
頭数(頭)	2,997	2,902	5,899
出荷日齢(日)	179.9	184.4	182.1
出荷体重(kg)	113.3	113.3	113.3
一日平均増体量(g/日)	634.5	618.6	626.7
枝肉重量(kg)	74.8	74.8	74.8
格付脂肪厚(cm)	2.03	1.67	1.85
上物率(%)	67.1	61.9	64.5

〈結果〉

表1が6農場全体の性別の成績である。比較する意味で、「しもふりレッド」途中世代(第5及び第6世代)豚を利用したミヤギノポーク出荷・枝肉成績を表2に示した。完成豚及び第6世代豚に比較して、第5世代豚を利用したミヤギノポークの出荷頭数は少ないが、去勢、雌とも世代が進むほど一日平均増体量は大きく

なっており、したがって、出荷日齢は短縮されている。完成豚を利用したミヤギノポークの出荷体重及び枝肉重量はそれぞれ平均で、113.3kg及び74.8kgであり、したがって、枝肉歩留まりは66%となっている。一方、格付脂肪厚は、去勢及び雌でそれぞれ、2.03及び1.67cmであり、上物率は67.1及び61.9%となっている。同時期同と場での全体の成績をみると、上物率は去勢及び雌でそれぞれ、43.4及び42.8%であることから、「しもふりレッド」完成豚を利用したミヤギノポークの上物率の高さが伺える。なお、格落要因のトップは、去勢では厚脂、雌では薄脂であり、これは同時期同と場での全体の傾向と同じであった。

表2 「しもふりレッド」途中世代豚を利用したミヤギノポーク出荷・枝肉成績

	去勢		雌		合計	
	5世代	6世代	5世代	6世代	5世代	6世代
頭数(頭)	174	2,460	166	2,350	340	4,810
出荷日齢(日)	187.7	184.3	194.9	190.6	191.3	187.4
出荷体重(kg)	112.6	113.4	113.6	112.8	113.1	113.1
一日平均増体量(g/日)	605.9	623.3	588.0	599.1	596.9	601.2
枝肉重量(kg)	74.1	74.6	74.7	74.2	74.4	74.4
格付脂肪厚(cm)	2.08	2.05	1.70	1.69	1.89	1.9
上物率(%)	-	-	-	-	58.8	61.8

酪農の省力化に向けて ～搾乳ユニット自動搬送装置（キャリアロボ）の導入～

宮城県産業経済部畜産課
登米家畜保健衛生所

家族経営酪農を支える新しい技術

毎日生産される牛乳の約80%はつなぎ飼いで農家で生産されています。この中には、「作業労働の過重」と「後継者不足」を理由に経営を中止したいと考えている農家も存在します。つなぎ飼いで農家では、乳牛50頭を搾るために2～3人がかりの作業で、朝と夕方毎に重い搾乳ユニットを担いで運ぶか、レールに沿って手で押して運ぶ大変な重労働であるため、省力化を切望していました。この課題解決のため現・独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構・生物系特定産業技術研究支援センター等は「1人1時間で50頭を搾乳できる」効率的な装置を目標に、研究開発を行い、重労働であった搾乳ユニットの持ち運びと、ミルクタップへの着脱を自動で行う装置を開発、今では酪農家の搾乳方式の選択肢の一つとなりました。

登米市渡辺牧場での導入の背景

登米市登米町の中心に近い渡辺牧場は、牧場主の宗光さんと子息の2人で乳牛97頭を飼養し（成牛72頭うち搾乳牛65頭）、年間約60万kLの生乳を出荷しています。昭和51年に就農（当時飼養頭数12頭）、平成2年には38頭規模まで拡大しました。

さらに60頭まで拡大を考え北海道の酪農家を訪問したところ、80～100頭規模であってもつなぎ飼いの飼養体系で立派に経営をしていることを目の当たりにし、渡辺さんも80頭規模への拡大を決意しました。平成15年、自給飼料の増産も考え、国の補助事業（迫地区畜産基盤再編総合整備事業）を利用し、牛舎、ふん尿処理施設の整備、サイレージ給与の機械、ローダーなど運搬作業機も充実させました。渡辺さんは規模拡大にあたって、フリーストール・ミルクングパーラー方式の導入も検討しました。しかし、ふん尿処理の方法（ふん尿処理の基本はふん尿分離処理）、費用や面積的な問題もあり、思案していたところ、搾乳ユニット自動搬送装置のことを知り、当時としては少なかつた搾乳ユニット自動搬送装置を導入していた牧場に視察に行きました。実際に搾乳するところを見て、新規就農した子息が装置の導入を希望したこともあり、すぐに導入を決めたとのことでした。

●牧場概要

牛舎形態：対尻式 乳牛 97頭
搾乳ユニット自動搬送装置
4台（ミルクカー8ユニット）



搾乳ユニット自動搬送装置

導入時期：平成16年3月

●搾乳状況

搾乳ユニット自動搬送装置

	飼養頭数	搾乳頭数	搾乳時間	作業者数	備考
導入前	38頭	30頭	1時間(朝夕)	2人(2)	()は主な従事者
導入後	80頭	65頭	1時間(朝夕)	2人(1)	

導入をした結果

搾乳ユニット自動搬送装置は、ユニットを搬送する本体1基に、自動離脱装置を2台搭載し、牛舎に設置した搬送レールに沿って牛の近くまで自動走行します。作業者は、乳頭の洗浄と、ミルカーを装着するだけです。

渡辺牧場は、濃厚飼料の給餌は自動給餌機、搾乳は搾乳ユニット自動搬送装置と、ほとんどの作業が機械化により省力化されています。搾乳時間は、1人で70頭程度の搾乳を1時間で終わらせ、もう1人は搾乳の補助とその他の仕事を行っています。余裕のできた時間は自給飼料の生産に向けています。機械化にはそれだけ投資が必要となりますが、渡辺さんも「長い目で見ればお金の面でも、精神的にも機械を使った方が楽なのでは」と話しています。

おわりに

この搾乳ユニット自動搬送装置は既存牛舎の改造でも設置可能であり、毎日の搾乳作業も負担が少なくなり、つなぎ飼養の酪農家の省力化の選択肢の一つとして全国的に畜舎の改築や新築にあわせ導入事例が増えています。現在、全国で170台、県内では3台と少数ですが、さらなる県内での普及拡大が期待されます。

(草地飼料班 佐藤 秀俊)



〈衛生便り〉

牛ヨーネ病について

登米家畜保健衛生所

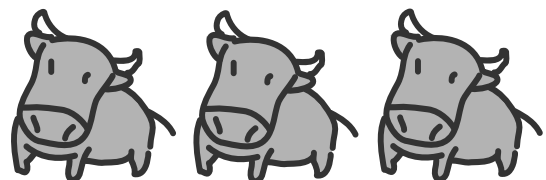
ヨーネ病は、ヨーネ菌が牛、めん羊、山羊などに慢性で頑固な下痢と削瘦を引き起こす細菌性の家畜法定伝染病の一つです。特に酪農経営に対しては経済的被害は甚大であり、国内での発生は北海道に輸入された乳用牛で確認されたのが最初です。その後、全道を中心に発生が認められ、近年では全国的に拡大傾向にある中、本県でもここ数年は連続的に酪農家において感染牛が摘発されています。

ヨーネ菌は感染畜の腸管で増殖し、糞便中に排菌され餌や飲料水を汚染したり、血行性に乳汁に移行して子牛への伝播も懸念されます。感染しても無症状で経過するものも多いため、保菌牛とは知らずに導入し、感染を広めてしまうおそれがあります。しかも、ヨーネ病に対する有効なワクチンや治療法が無いことも本病の清浄化をより一層困難なものにしています。

ヨーネ病発症牛や検査陽性牛は家畜伝染病予防法に基づき殺処分されます。さらに発生農場においてはその後3年間、飼養牛全頭を対象に家畜保健衛生所による検査を受けなければならないため、生産者にとっては経済的被害以外にも大きな負担となっているのが現状です。

乳用牛及び肉用牛の飼養者のみなさんは、ヨーネ病発生地域からの家畜導入は避けると共に、清浄地域からの導入であっても是非、着地検査を受けて下さい。(導入前に検査を行っていても着地の際にはあらためて検査をお願いします。)そして飼養家畜に異常を感じたら、かかりつけの獣医師や最寄りの家畜保健衛生所ならびに畜産振興部に速やかにご相談下さい。

(防疫班 建入 茂樹)



NOSA | 宮城 中央家畜診療センターの紹介

中央家畜診療センターは古川市の北部丘陵地、市民の憩いの場、化女沼の近くに県中心部の拠点診療センターとして設置されております。

奥羽山脈の麓から、水田の広がる大崎耕土を経て太平洋沿岸に至るまでの広い地域を管轄し、管内には六の国、大崎、石巻地方、宮城中央と4つの農業共済組合があります。

共済加入家畜については、乳用牛10,375頭、肥育牛11,516頭、繁殖牛（胎児も含む）31,207頭、豚（種豚・肉豚）500頭を数え、県内屈指の畜産地帯の中心センターとなっています。

家畜診療センターには診療課、損防課、庶務課の3課があり、獣医師10名、事務職2名で各々連携をとり業務を行っています。診療課は日々の診療業務を中心に、損防課は共済加入家畜の特定損害防止、家畜群管理事業、予防注射、事故低減巡回等損害の未然防止に努めています。また、大衡村、石巻市に支所を配置し、広域に対応した診療体制をとっています。

事務所には検査・実験室、油圧式手術台を備えた手術室があり、血液検査、乳汁検査を始め、第四胃変位等の手術に対応しています。平成18年には携帯用超音波診断装置を新設することとしており、検査器具の充実を図っています。

現在、日本の農業、畜産を取り巻く環境は、農産物価格の低迷、高齢化、生産性を追い求める中での家畜の事故の増加等極めて厳しい状況におかれていると思います。この様な中で私たち家畜診療センター職員は、家畜保健衛生所を始め関係機関、団体及び開業獣医師の先生方の協力を得て畜産農家の経営安定、共済事業の進展のために今後とも努力していく考えですので、よろしくお願ひします。

(所長 早坂 雅孝)



4列目 田代事務員 松田獣医 加納獣医 川名獣医
3列目 佐野事務員 鈴木獣医 高橋獣医
2列目 佐々木診療課長 早坂獣医 熊谷損防課長
1列目 早坂所長 木村次長

〈実践大生校生の抱負〉

将来やりたいこと

宮城県農業実践大生校
畜産学部1年 清水 守行

私の家は畜産農家ではなく水稲のみを行っています。なぜ畜産学部に入ったのかというと、高校の時に養豚を専攻してきて畜産、特に養豚に大変興味を持ったからです。畜産に関して初心者の私ですが、実践大生校の授業の一環として行

われる50日間の先進農業体験学習では、栗原市の高清水養豚組合にお世話になり、飼養管理の基礎知識から人工授精の技術まで幅広く学んできました。

高校で畜産を専攻した当初はただ単に動物が好きだったからという理由だけでしたが、実践大に入学し、授業や50日間の研修をやってきて、豚肉を生産しているのだという使命感と農業の大切さがわかりました。勿論、動物が好きだという気持ちは今も変わりません。

私は実践大生校で多くのことを学び、卒業した後は、県内で養豚を行っている生産法人に就職したいと考えています。畜産学部1年生16人のうち養豚を専攻するのは私だけで、「豚をやるなんてめずらしい。」といわれますが、私はこれから卒業するまで畜産のことをしっかり学び、将来につなげていきたいと思います。

現在の農業においては様々な問題があり、特に畜産においてはBSE等の問題で消費者の食肉に対する信頼感は失われつつあります。その中でこれから畜産をやろうとしている私たちが果たす役目としては、安全で安心だといえる畜産物の生産や、若者ならではの体力と発想力で畜産を盛り上げていくこと、消費者に生産者のことをよく知ってもらうことなど、これからの農業は消費者と良い関係にならないとやっていけないと思います。

私は養豚をやり、豚肉を生産するにあたり、これらのことを考えながら、将来は立派な生産者になりたいです。

優秀農林水産業者の表彰について

宮城県産業経済部畜産課

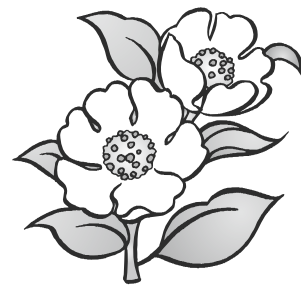
平成17年11月23日(水)に明治神宮会館において平成17年度(第44回)農林水産祭表彰式典が開催されました。

式典では、三浦一水農林水産副大臣をはじめ各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者等約700人が参加して天皇杯等の授賞式が行われました。

本県畜産関係では、次の方々が栄えある賞を受賞されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

表彰行事名	品目	市町村	受賞者
平成16年度宮城県総合畜産共進会	乳用牛 肉用牛 肉豚	丸森町 南郷町 豊里町	半澤 善幸 南郷町和牛改良組合 (有)ピッグ夢ファーム
第44回仙台牛枝肉共進会	肉牛枝肉	中田町	千葉 英軍司

(家畜改良衛生班 畠 美苗)



賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	木村春雄
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	松井俊幸
宮城県農業共済組合連合会長理事	浅野衛
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	砂金甚太郎
宮城県農業公社理事長	伊藤孝雄
宮城県草地協会会長	風間康静
宮城県獣医師協会会長	太田孝
宮城県酪農協会会長	砂金甚太郎
宮城県ホルスタイン協会会長	佐藤正志
全国和牛登録協会宮城県支部長	佐竹仁郎
宮城県牛乳協会会長	梅澤盛夫
宮城県家畜商協同組合理事長	三戸部栄一
宮城県養鶏協会会長	村上寛
宮城県ホルスタイン改良同志会長	半澤善幸
宮城県家畜人工授精師協会会長	大江義之
宮城県牛乳普及協会会長	砂金甚太郎
宮城県食肉消費対策協議会長	加藤善昭
宮城県畜産協会会長	木村春雄